

第3学年3組 国語科学習指導案

令和7年10月22日（水）5校時
計27名（男子13名 女子14名）
指導者 佐藤 久美子
授業場所 3年3組教室

- 1 単元 古典を学ぶよさを伝えよう
いにしへの心を受け継ぐ 夏草―「おくのほそ道」から

2 目標

- (1) 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 <知識及び技能>
- (2) 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。
文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持っている。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合っている。 <学びに向かう力、人間性等>

3 指導にあたって

(1) 教材について

松尾芭蕉の代表作である「おくのほそ道」は、格調高い漢文調の簡潔な文体や対句が多用される表現の工夫等の魅力に富んでおり、音読を通してその味わいを実感できる作品である。取り上げられている冒頭部分と平泉の場面に通底する芭蕉の人生の捉え方や、古典作品の作者や登場人物を敬愛している点等、作者にとっての古典との向き合い方を手がかりに、生徒がこれまでの学習を振り返って古典作品を学ぶよさについて考え、今後の自分と古典との向き合い方を考える契機となる教材である。

(2) 生徒について

国語に関する各種テストの結果から、本学級は学力差の大きい集団だといえる。「書くこと」に苦手意識を持つ生徒が多くいるため、これまでの授業ではグループで相談したり、互いの文章から良い点を学んだりする場を多く設定してきた。また古典に対する苦手意識を持つ生徒も多く、「論語」を学習したときは、歴史的仮名遣いの復習に時間をかけて取り組んだ。現代語訳をもとに内容を理解してからは、「論語」の言葉が、現在の自分たちの生活に生かせる言葉であるということに気付くことができた。今回の学習を通してこれまでの古典学習を振り返らせ、それぞれにとっての「古典を学ぶよさ」について考えを深めさせていきたい。

(3) 指導について

①本単元で特に働かせる見方・考え方

「見方」	「考え方」
創造的・論理的な視点 感性的・情緒的な視点 他者とのコミュニケーションという視点	言葉の意味、働き、使い方に着目して、捉えたりその関係性を問い直したりして、意味づけること（言葉への自覚を高めること）

②単元を通して身に付けさせたい力

- ア 伝統的な言語文化を理解しようとする力
イ 表現の仕方を考えたり、資料を適切に引用したりして自分の考えがわかりやすく伝わるようにする力
ウ 我が国の言語文化に対し関心を持ち、活用しようとする力

③手立て

(手立て1) 学びを実感し、学びをつなげるための振り返りの充実

- ・「この時間に読み取った芭蕉の思い」について毎時間振り返らせ、記録を積み重ねることで、作品全体を貫く芭蕉の人生の捉え方や、古典作品を下敷きにして自分の表現を創作している点に気付かせ、自身が古典を学ぶよさを考えるときの手がかりとさせる。

(手立て2) 積極的に自己表現し、粘り強く自己調整する場の設定

- ・これから初めて古典を学習する小学5年生に向けて、声に出して読んでほしい古典作品を紹介するという課題に取り組むなかで、自身のこれまでの古典学習を振り返って適切な古典作品の一節を選んでいくということと、相手に伝わる表現になっているかということの2点について確かめさせ、よりよい表現の工夫を検討する場を設定する。

4 指導計画（5時間扱い 本時は5時間目） ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価

時	主な学習活動	目指す姿	知	思	態
1	冒頭部分を読む ・音読し、口語訳をもとに内容を捉え、芭蕉の旅への思いについて考える。	・人生を旅と捉え、旅に生きた古人へ憧れる芭蕉の思いについて、現代の価値観と比較したり歴史的背景を確かめたりしながら考えている。	○プリント		
2	平泉の場面を読む ・音読し、脚注をもとに内容を捉え、「高館」「光堂」で芭蕉が感じたことについて考える。	・歴史的背景に注意して古文を読み、自然と人間を対比して感動を覚えている芭蕉の思いを理解している。		○発言	
3	俳句を味わう ・「『おくのほそ道』俳句地図」に紹介されている俳句を読み、心に響く俳句を選ぶ。	・芭蕉のものの見方や感じ方に触れながら自分の心に響く俳句を選び、選んだ理由を伝え合っている。			○発言
4 5 (本時)	古典の紹介文を書く ・これから古典を学習する小学5年生に向けて、古典を学ぶよさに触れながら声に出して読んでほしい古典作品を紹介する文章を書く。	・「おくのほそ道」を学んで捉え直した古典を学ぶよさを明らかにしている。 ・声に出して読んでほしい古典作品を紹介する文章を、小学5年生に分かるように作成しようとしている。		◎プリント	

5 本時の学習

(1) 目標

既習の古典から適切な言葉を選んで紹介文を書き、読み手に伝わる文章になるよう工夫している。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 指導過程

学習活動【学習形態】	○目指す生徒の姿	◇手立て ・留意点
1 「おくのほそ道」冒頭部分を音読する。 【一斉】	○これまでの学習を生かして、リズム良く古文を音読する。	・音読するとよさが際立つことに触れ、「おくのほそ道」だけでなく、これまでに学んできた古典作品もそうであったことを想起させる。
2 課題を確認する。 【一斉】	○課題を確認している。	
課題 小学5年生に向けて古典を学ぶよさが伝わるように、紹介文の内容や表現を吟味しよう		
3 推敲の観点を確認する。 【一斉】	○提示されたよくない例から、推敲する際の観点をつかむ。	・教科書P170の観点「選んだ言葉と伝えたい思いとの関連が、適切に表現されているか。」にある「適切に」とはということかを具体的にイメージさせる。
4 推敲する。 【個人かグループか選択】	○確認した観点に沿って推敲する。	
【中間評価】の場面 ＜予想される生徒の反応＞ ・推敲する際の観点を具体的にイメージできない。 ・観点は理解できるが、自分の文章をどのように推敲すればよいかわからない。  ＜生徒に意識させたいこと＞ ○「声に出して読んでほしい」理由が、これから初めて古典を学ぶ小学5年生にふさわしいものになっているか。 ○小学5年生が読んで分かる表現になっているか。 ＜教師の手立て＞ ◇よくない例を提示し、どの表現をどのように推敲するとよいかを具体的に考えさせる。 ◇その推敲の過程を一般化し、推敲する際の観点とする。 ◇自分で推敲するか、グループで互いに推敲するか、どちらか選ばせる。 ◇活動の中盤で、具体的にどこをどのように推敲したか問いかけ、全体で確認する。		
6 交流する。 【グループ】	○推敲した点を確認、古典を学ぶよさについて考えている。	・古典を学ぶよさについて、小学5年生にどのように伝えるか、考えを交流するよう指示する。
7 本時の学習を振り返る。 【個人】	○本時を振り返り、工夫した点や新たに気付いた点を明らかにしている。	・推敲で表現を見直して工夫した点や、交流で他の考えと比較して思ったことなどについて振り返らせる。
＜生徒の紹介文の例＞（B評価） ○「夏草や兵どもが夢の跡」という松尾芭蕉の俳句を紹介します。武士たちが命がけで戦った場所も、時間が経った今は草むらになってしまったという意味です。むなしさが感じられます。その思いは、俳句にうたわれている武士たちの一人である源義経の、夢を叶えられなかった無念さにもつながっています。平安時代末に生きた義経、江戸時代に生きた芭蕉の思いと、今の私たちの思いが重なっていることを実感できるのは、古典を学ぶからこそ感じられるよさだと思います。 この俳句は、そのような少し難しく感じられる内容を、五・七・五の短い字数で言い表しています。声に出して読んで、「兵ども（つわものども）」の力強い響きを感じてみてください。		